

脳動脈瘤破裂に起因する内頸動脈海綿静脈洞瘻に対して Amplatzer Vascular plug とコイル併用による塞栓術を行った一例

○望月洋一¹、赤路和則¹、志藤里香¹、谷崎義生¹、神澤孝夫²、木村浩晃³、美原盤³

1 脳血管研究所 美原記念病院 脳神経外科

2 脳血管研究所 美原記念病院 脳卒中部門

3 脳血管研究所 美原記念病院 神経内科

【緒言】 Amplatzer vascular plug (AVP)は、血管塞栓用デバイスでコイル塞栓と比して migration リスクが少なく、経済性に優れる。我々は AVP を用いて内頸動脈瘤破裂に起因する内頸動脈海綿静脈洞瘻 (CCF) の治療を経験したので報告する。

【症例】 79 歳女性。動眼神経麻痺による複視と拍動性耳鳴を認め、MR で内頸動脈瘤破裂に起因する CCF が疑われた。血管撮影にて左内頸動脈海綿静脈洞部に最大径 11mm の動脈瘤破裂による CCF を認め、眼静脈や下錐体静脈洞だけでなく、中大脳静脈への逆流を伴っていたため、STA-MCA bypass 術を併用した瘤内および母血管閉塞術を施行した。コイル塞栓のみではシャントは消失せず、中大脳静脈への逆流が残存したため AVP を 4 つ使用した。眼静脈や下錐体静脈洞への drainage はわずかに残存したが、中大脳静脈への逆流は消失し、手術を終了した。術後合併症なく、複視、拍動性耳鳴が改善した。術後 3 ヶ月での血管撮影ではシャントは消失した。【考察】 AVP は迅速な塞栓を可能にし、手術時間や被爆時間の短縮、コストの低減につながる。高流量血管の塞栓術において再開通リスクが少なく、効果的である。【結語】 AVP を使用し、CCF を治療した一例を経験した。